



バンコク便り



1. はじめに

タイでは、1年で最も暑くなる時期に入っており、連日平均35℃を越える日が続いております。加えて今年は過去55年間で最も暑い44℃を記録する等タイ各地で猛暑が伝えられており、熱中症による死亡等が増加しているとの事です。

2. ビジネス情報

(1) タイのプラユット暫定首相が戒厳令解除を発表

4月1日、タイのプラユット暫定首相は、昨年5月20日から続いていた戒厳令を約10ヶ月ぶりに解除。昨年のクーデター以降伸び悩んでいるタイへの観光客など、戒厳令がタイ経済に与える影響も大きくなってきたことから、解除を決めたとみられています。

(2) タイが日本産食品の輸入規制原則撤廃

5月1日、タイ保健省は東京電力第一原発事故後、日本産食品に課していた輸入規制について一部の野生動物の肉を除き、原則撤廃すると発表しました。タイは日本の農林水産物・食品の有力輸出先であり、今回の規制撤廃で輸出拡大への追い風となる事が期待されます。

(3) 5月20日～24日タイフェックス 2015 開催

5月20日より、タイ商業省国際貿易振興局や商工会議所などが共催する国際食品見本市「タイフェックス 2015」がバンコクにて開催されます。見本市にはタイの他、日本、中国など計35カ国の食品、飲料、それらの製造技術、小売やフランチャイズなどの関連企業1531社が参加し、合計3942ブースを出展する予定です。期間中の来場者は11万2千人と予想されています。

(4) タイ労働省が法定最低賃金の年内据え置きを決定

タイ労働省はこのほど、タイ国内における現行の一日法定最低賃金300バーツについて年内据え置くことを発表しました。ただ、5月1日のメーデーには王宮前に多くの労働者が最低賃金360バーツへ引き上げを訴えるパレードを行う等タイ国内の温度差も広がっているようで、今後の動向には注意が必要と思われる。

3. 現地トピックス (タイの旧正月であるソンクラーン (4月13日～15日) の状況)



ソンクラーンは通称「水かけ祭り」と呼ばれるタイ正月を祝う年中行事で、タイ全土各地で様々なイベントや行事が開催されました。タイ政府の発表では今年の間期間中の観光客は、国内を観光するタイ人及び海外から来る観光客併せ、約630万人に達するとの予測が示されました。また期間中の経済効果は約520億円の見通しであるとの事です。

この期間海外旅行に出かけたタイ人は約40万人に上り、人気旅行先トップは日本。タイでは訪日観光ブームが過熱している状況で、最近ではパッケージツアーではなく、自由な個人旅行を楽しむ人が増えている傾向にあり、バンコクの書店では多くの日本ガイドブックが陳列されており、内容も食事や土産物専門誌など多岐に亘っています。タイの訪日観光客が右肩上がりが増加する中、受け入れる側の日本各地域の競争も激化していくことが予想されます。



バンコク大型書店に並ぶ日本各地のガイドブック



バンコク各所で配布されているフリーペーパー『DACO (ダコ)』。月2回発刊(発刊部数は1回当たり2万部)。直近号では日本の各地駅弁特集で米沢牛弁当も紹介されていた。



【本件に関する連絡先】

海外業務部 石井、軽部 023-626-9050
バンコク駐在 (カシコン銀行ジャパンデスクトレーニー) 山岡 +66-(0)9-2249-1176